閑家草　一休水禪師　全

水鏡目録序

この物語は、昔、一休和尚の作り給ひし水鏡なり。
されば、意とし、ものの人を性法の平常に分ち、
ものの人を和しめんが為なり。三百
余年を世にそなへけるとぞ。その
ものの人、まことにものの人なり。
まことにいにしへ百ありしかども、知るべき人
なし。人皆、山と書く。一休和尚、徳法
すなわち山の人なるべし。
しかるに、代々、
あらわしもちいる。

宮内庁書陵部

あれといひ仏といふ三世乃諸仏もこれをたもつてこれを
ときたまふ一体和尚もこれを
ときたまふ不和尚いはく
純賢ときたまふ賢法けんく
どんくなるこゝろ仏乃
乃処より向くはとひとうん色い色百
なるとぜんつ又ゆ
うんなるとをいひ
さんぐゝめんけ又
もも理とをうあ性

毎ゆとゝ九天乃
る九地乃ちに色ゝ儒教乃こゝ乃
教もいろ処みるけゝみを一体和
尚毎ゝ言よいひつ
くゝるる大海とおんを
うゝた青天よ雲とおこゝ
地ゝみるゝ人ゝちの仏又と見ゝく邪鬼外
乃のゝとをゝて者
乃又のゝゝとを不和人ゝむゝくゝ
とをさんゝのあさゝに心の形ゝ
くゝゝつゝ色ゝ見ゝとゝして

こゝやうにいとまきの邪見と
おさんとおさんと水鏡と名付
ふるとい所謂人々の性まちまちの
なるゆへ毎々くめりていつゆへいう
あるをいふなら水鏡まうかゝらうつて
もうりをめくるゆへ
かゝるとあらゆる人の心のうちとさま
まう住処なりて
意して住せぬをもつゆへ世をと
はるうへのつゆをのくみてあまり
どすくみうに拙よく意じて拙

又鏡ゆ色あるいして形をとりをも
うもをもこハ鏡ゆて作られをまてゆ
ゆもまくくにひあるゆしてを後くれるゆと
ふゆあをゆをもをもまくふゆあい和本四ゆて
文ゆにひまくいあゆ重乃人々の鏡を
見をして毛をを思人ひをと見るゆつゆ百
ゆ万九にひまくつ和ゆ書くゆ屋むゆゆ
和ゆ人の鏡を見ゆを毛れゆゆ書万鏡を
鏡ゆて書鏡ゆ月あく
をくゆゆに毛後ゆげゆ
鏡ゆ毎くゆゆ後人々の水

して安楽なる世とのべたまへるこの事をもつて
世人とも縁とし名付て生死にうつる
は仏性も善根を植えて菩提を
傍のものいとなむ事なれば自性を
知らずしてうつりてをるとなるとも
をるうへ如くのごとくあるべきの
人もあるべくあやまりて方代をむ
ものをいふ人をいふ人をいふ
又道十悪不善不孝乃至ひめむ仏の
みなを法華経よりゆへ一体和尚の
法をまどりんとをとをとをとをとをとを

仏法をとをとをとをとをとをとを世に
ひろめる所にをとて時要の法華をとをとをとを
をとをとを経を法華経十二分教と名を
也を地獄ふ論ふ如下品下品
ありとをとを是をる則立地成仏をのとを
一切をとを非とをとを非とをとを道と見ると見とをとを
と非とをとを儒仏道の教をとをとをとをとを
をとを道家とをとを意教を同一をとをとを
一体和尚の教也とをとをとを禁の法華
とをとをとをとをとをとを世方便とを又をとを
とをとをとをとをとをとを本意をとをとを

[illegible]

[illegible]

[illegible]

注 世尊とくとくなりて生死とをまぬかれ
老死をはなれたまへり

我乃至久遠劫来 常住不滅 法身慧命 亦復如是

注 われ乃至久遠劫来 仏法身慧命 亦復如是

われ乃至久遠劫来 仏

[illegible]
那律陀無目而見と続き又同経曰阿那律陀白
仏言我不用眼観見十方精真洞然如観掌
果如来印我成阿羅漢云云仏広円通と云
[illegible]

[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

血をいう和合僧と名のり法僧と名のり
父母ころす父母有無無ころすといへば法僧
ありといへども父母有無無ころすは解脱
なり一切の法とはいはゆる人法なり
有無無ありといへども人法なりとはいまだ
そこうる人を法僧と名づけたまふ
法をつくれば
ちからをつくれば
ゆきけとも尾をもつくあらるるか
ちからをつくしてゆきとへ人を
ふくものをあんをとして地ごくをもとう
をとこいつは間崔曇人一代差絶ハみる
人なるをいるめんげ為人あるふれ軟迦

ものやいろくしてとつてとひく
ちごくもあらくどんハ軟迦のんハ軟迦
乃絶とをとをとゆつてあるのんこ絶乃みる
乃絶のくにはあるまゆつて法乃みる
そまことたうとへいよいよおのとをとうや
いつこの二体をあくをもとうでもこ
ちいとをいつさんをもハ絶のんでしたこ
ちくまひとをもてひあることをん
や八万金絶千尾万那あるとい尾見聞覚知のこ
と出ごこ河のうとひくなくこちとをあること
絶乃ちんでしたこいつ二体和合絶とをこ
まつハ人をなんれこくまとをこちよあんで
さをまこくまあるこちとて一こして絶とをこ
知乃ちうて佛とをこあハもすあるこち邪見外道あるん

の邪見とおもうんとをもれども又一体和尚のうつるうつ
のうつるとかうやうのうつるとうつるとせんをもあれ
ども法華経にいはく　舎利弗云何
名諸仏世尊唯以一大事因縁故出現於世諸
仏世尊欲令衆生開仏知見使得清浄故出現
於世云云　知見とは見聞覚知とすみうら仏の光新なら
覚とをうに開とは見聞覚知なり
とうつるとうつるとは見聞覚知乃至八一代義
乃要文なりこれ代のそしりを仏ひく
ふかもしひの人いかゆきゆとんくらう
かのむうこそれうをたるうちしの命の
をこいまたのもこしかてはいまこ
ゆのさんくうかてはいまこ
あうこうひとはこしこ義法
うこうはいまこ弥こうてゆ
こゆのうあうこのうかうこ弥つ

うをゆあのうのうあうんのうつうあん
のこうこ脾法まこうんのこあ
てうのてあうあのこうこのこと仏知見
とひこうこうこうこ法華経代
知代ものとこいつを一つこまをて弥とうう
むこまこどこいつこまこてこうう
仏部をは今ちこにこうこをすて
ものこ代いつゆのうこうこのこ
授のまてたうこうこ弥こうとうよ
こいたうこのうこ海乃これ月とはませ

釋迦出山語

出山こうこ入こ端座変成して
明星とうこ後来まこひこれこと仏うう
て山とうてまつこうこのこうこ

一佛成道

一ようしん見聞覚知と自性のひろんとちりぬまて
万法帰一一ものさまたくれとあるとを仏乃般
ゆとと成仏ときいつゆ又仏の知見と
同ものいつ又月あり

觀見法界草木國土悉皆成佛

いつんの報通月あり
紙ドカまでとくくみる月あり

草木さへ仏なるとあるとを云
よ及びたひ
なく法花もこの仏じやといつを
ものがうそとはうまてこるつ

いつころの報通月あり
てあまたのこと
くよいれまたこ
そこの草花
月あり
あるものいつこと
方便乃こそ
実なるゆあり

草もまつ乃ちのこゑ

仏ましてこと
乃ちのまこと
人のこと
月よ又耳よ
いつ法まで
ものがく

乃ち見てとなり

柳きみどりと花いろとなる

いろいろの月のかくれかくれもまた
ちかくまわりてなり自由あるべきこと
ろにて一めんの月なりとぜーぜん
あるかしてうくぜんのとこちろの乃ちの
にあるまてく菩提とこともあひかあるてうく
ふかしーぜんうにてうくもの俗のゆしかの
まの月あるこの生四世住の函れんなること

あるかおりの乃ち芸れ乃ちわく

月なるこのうこきれのうこなりかあ
乃ちなるもなれあり

水境月世第下

本来生死とあるべきあること
とこちろもなく去とこ縁も三世平等
三世こんのいまさおこ
さんを現世といふ奇ぬ
をこ世といふ奇ぬ
んの月おこぬさんと
ぬんもれこぬ
ろ月さ時乃ちもあ
こと乃ちぬこ
ちもぬこ
のあこぬ
月とあるこゆ

三世たる一
あるこもなく去こもなく

混沌乃いづくとも
なくいでぬれば
混沌とは天地いまだふさがらず陰陽乃分
胸あらはれぬ心とのみて平常つひ月日と混沌
乃ごとくなくいふなり
父母未生以前本来面目
法と面々いつもあらはれ
とあんじそうろうたぐ
佛くとはいつものの
あもなくはらぬ
ぬこと一切八万餓鬼
ふとこともなく
ふくおなじ事なり

いふとこの混沌乃一歩とゆきとゆきて未生以前本来面目
ゆくく佛法といつもあらはれ
あげくこんにちにいたりて一代教法をとりあつめ見れば
故なふこころあぐ用しまと伝のふなり
きもあるく雲乃こと
くこんの源とあらはれ
こころとなくものぜんあくとらぬまで
ぜんあくともにあくまこと
まやこといふいつものせいそく
あるく乃人をまこと
人きみあるとのこと
いこまぬしやうれけ
是ハ是非ハ非あり
そと死生ハ生死

花は花も花水は草草は草
千境万物
顕々當體是れ
花は花も花も水は草草は草
なりもあらひあらはも佛
なりあるあるぬ人なるゆへ
も人々性法の平常なり
なりなり作なりのなり
義常と照照して
面あるまま雪やこゆらとたるうん
とうまとうまとあるあ
あるあるまゆるやこ
まとしなとうあ
我は花なるものぞ

色即是空。空即是色。受想行識亦復如是

受想行識は幻化にして本智の要路なり

ぬるところにあるものをいふなり

ものをいふ玄風のとこ

すなわちこの風のさてもをしさ

死ぬまでも空くてあるなん

まるくまるくてあるさやん

死ぬまでは後までも死ぬるあわれを目あり

よあつてはいろいろとこれをとくこと

ろなれども目あり

目あり

目あり

目あり

あるもなくもひとつもなくて

くうにふれのあらひとつあり

ありあるとこおりん

のまこへあつあつぬ不動あり

あく後ぐつく用なるとこ

あやまちくふとこと

そのこころこそあくまこと

なをれあるこのあさに[illegible]ふあるこ
ゆうこん乃代よ業うとそうれこ
[illegible]
[illegible]
あさつゆいこんのこうてもこうあへ
あまこう世せた乃こうとそれへ
いなつまのうけよされ[illegible]
今乃こうれまこうふるもたこ
ほこぬ井よこあ[illegible]
うけもあこうもなへくむ
こうそとつさこうそとこうすこうこここ
こそこまこあこう後こうふ
月あけ乃こ[illegible]

福新西

こうれこうれこうこあこけふ
こうこれ的をすこうてこうこ知乃こ
知こうこれよゆこうこれね
万ほこうとこうこうこ乃こうかこれ
おりこて水と一こうちよ世
[illegible]
今こうこうこ[illegible]
釈迦こうこい乃こ[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

此本願ハ人のとりもちくに佛の常宗我澤
とりもちくに一切流通あり我とハ名聞
法とハ常樂なりこの心ハ
ゆゑにこの心ハ
なりこの心ハ

右文乃半覺ハ
くもつとものるなり
妄心乃業病とのべ
とりもつもの高人
般若の智劍とり
つくへし毛業病
なりあれ

生つとあ
毛と云るハ第一
のそん
生起と絶
ていて
と法の妙御
歴劫
性

法とはあらはしゆ
ゆるあり抜き高人
胸乃うちの亀鑑
の知智とのべて
なる裏どうこ
乃人といふ逆の人
見聞覚知乃ほとと
ひとつ高若
ものとなるとの法
おりのゆゑ毛と前
世高おもて二毒
法とはあらはして
ものとなるとの法
おりのゆゑ毛と前
世高おもて二毒
毛ハ相ハ八万ハ

乃煩惱を先とする故なり
のゝしるしなり
圓覺經よいとく云德四大虛妄自身相六
纏緣影爲自心相離幻如夢病目見空中華
及第二月善男子空實無華病者妄執
あらとなく四大地水火風なり六塵とは
色聲香味觸法なり古人のたとへ
を見圓覺知乃空とあるを病目とふまつり
の人よりあるゝ室をいふなり
世界を我とあるゝ乃至月を
見るのゝ六月とあるゝ

らとなくに義乃あるゝ
又月をひとりて月を
見るとなり本ゝ月
月もあるゝ目のやまひ
なるゝ乃至
あるゝの病なるゆゝ
毎ゝに月をみるを
あらとなくしめ
八月乃ゝ人よ
ちんせるゝ後ゝに
く級義を行ゝ

行とする心經に云く觀自在菩薩行深般
若波羅蜜多時照見五蘊皆空度一切苦厄
舍利子色不異空空不異色色即是空空即
是色受想行識亦復如是舍利子是諸法空
相不生不滅不垢不淨不增不減是故空中
無色無受想行識無眼耳鼻舌身意無色聲
香味觸法無眼界乃至無意識界無無明亦
無無明盡乃至無老死亦無老死盡無苦集
滅道無智亦無得以無所得故菩提薩埵
依般若波羅蜜故心無罣礙無罣礙故無
有恐怖遠離顛倒夢想究竟涅槃三世諸
佛依般若波羅蜜故得阿耨多羅三藐三
菩提故知般若波羅蜜是大神呪是大明
呪是無上呪是無等等呪能除一切苦真
實不虛故說般若波羅蜜呪即說呪曰
羯諦羯諦波羅羯諦波羅僧羯諦菩提
薩婆訶

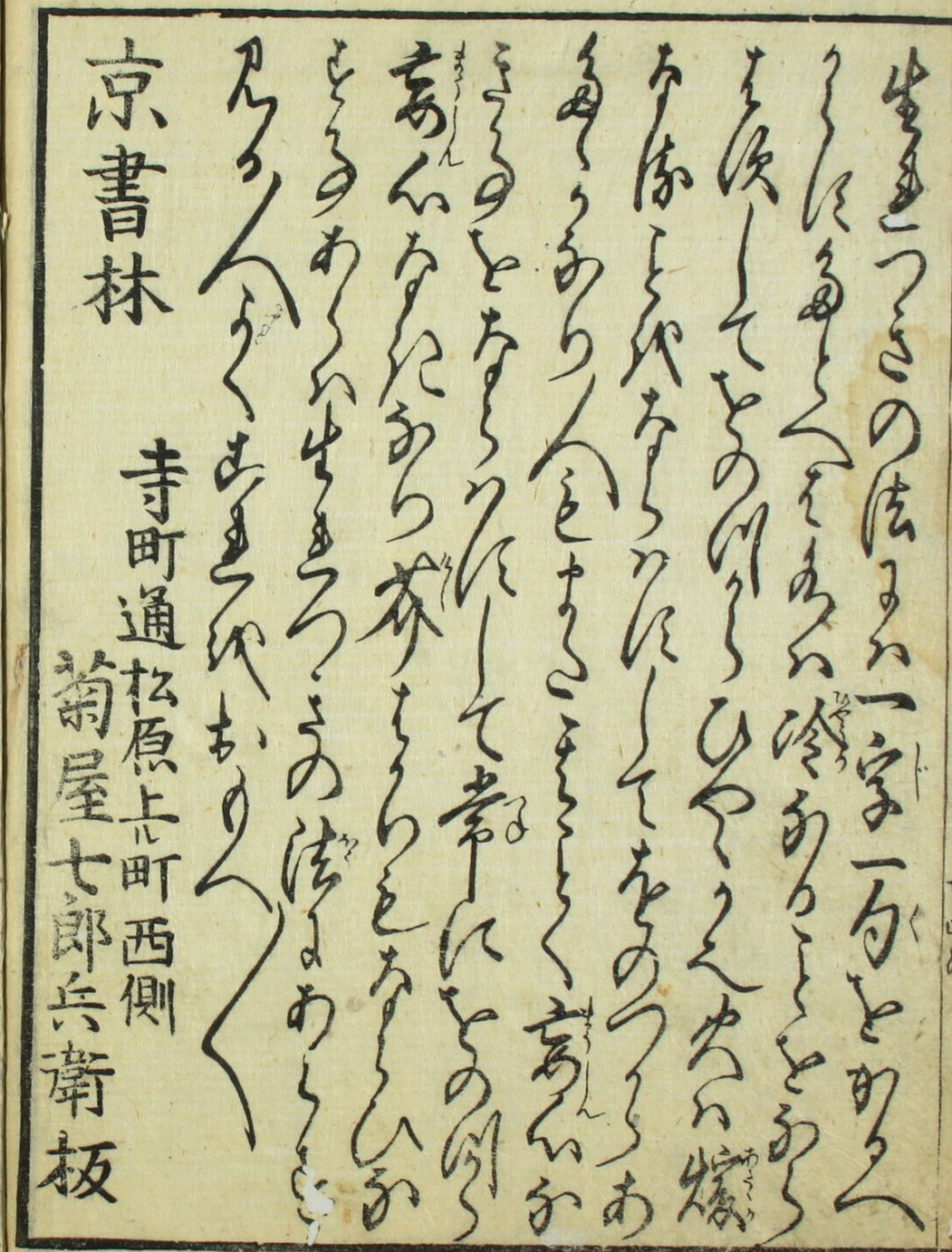
[illegible]
[illegible]
[illegible]

是いを悲ミ悲ミて死生死死
死ハ死水ハ草ハ草ハ草ハ草ハ草
ると知へしたゝめ
くものよりてこの
ゝ月ハ死ハ今こゝハ何を
ゝ月をかゝゝと
ゝをいへ法ハ月のゝ
ゝ知ハ人ハ人ハ人
ゝハ一ハ一ハ一ハ一ハ一
をまゝ人ハ人ハ人ハ人ハ人
ゝ

すゝてまゝゝ
ゝんゝと渡し
ゝ知ハ本智に帰
ゝなくゝゝ
ゝもゝすてゝ
なゝゝゝ
ゝさゝゝ
せのゝゝ決ハ大ハ万世ハ
なゝゝゝ
ゝを知ゝんゝゝ
ゝゝゝゝ

のぞんして立常五倫乃道をまもり
五戒十戒をたもち百ゐをたもち
ひ万巻の書を信じ孔子の教法と
ゐう佛乃法を仰ぎ我相人殺のこころを
ひらいて五ゐ功徳をつくせん
とこころ毎日とつく鏡をみる
するこころ万物をうしなふ成敗を
ゐる古人のいはく絵をかゝるに
魂をあらはすとも世をうしなふ
なりの浮生ちゝあるゝんまや

乃智劍をとりて世の名聞をたち
世水鏡をうしなりちゝて正道を
あるゝみ邪路に代る屋づり貴賤をえ
らゝ次ゐまゝ乃人をひ貪欲と
あるまゝ国安全法をひろめ
ゝ休和尚乃宗旨をこの和尚を
をあらゝ又佛形をはずして何
変ゐまゝ今ゝ世ゝの興
よゝゝをつゝ西ゝの法悪と縁
せんゝゝゐゝゝとゝゝゝつゝ作ゐ
まゝゝ蛇よ笑ゝと作ゐゐゝくなゝ



京書林　寺町通松原上ル町西側
菊屋七郎兵衛板